



C.M.D - case IV-

The first part

qedqed

登場人物

登場人物

うみっち

本名：海水 さより（うみみず さより）

性別：女性

趣味：推理小説を読む、リアル脱出ゲーム参加等のミステリー全般

出身：兵庫県（現在も両親と姉と実家暮らし）

在籍：北摂国立大学法学部法学科1回生

将来の夢：検事

やまっち

本名：山土 ゆりね（やまつち ゆりね）

性別：女性

趣味：料理、カフェ巡り

出身：京都府（現在はひとり暮らし）

在籍：北摂国立大学理学部数学科1回生

将来の夢：アーベル賞受賞

そらっち

本名：宙空 れいら（そらく れいら）

性別：女性

趣味：ダーツ、ドライブ

出身：大阪府（現在はひとり暮らし）

在籍：北摂国立大学医学部医学科1回生

将来の夢：監察医

めら先輩

本名：炎火 焰（えんか ほむら）

性別：女性

趣味：天体観測

出身：滋賀県（現在も実家暮らし）

在籍：京阪府立大学工学部物理工学科2回生

将来の夢：NASAで働くこと

ひゃど先輩

本名：氷雨 雹（ひさめ ひょう）

性別：女性

趣味：プログラミング

出身：奈良県（現在はひとり暮らし）

在籍：京阪府立大学工学部情報学科2回生

将来の夢：人工知能の研究者

死の伝言 - 表舞台 イントロダクション -

※後編だけ読んでも楽しめる内容になっています。

「うみっち、こっちこっち！」

駅の混雑した中、私うみっちを呼ぶ声。めら先輩の声だ。声の方に振り向くと、隣にひゃど先輩もいる。

「めら先輩、ひゃど先輩お久しぶりです。」

「ほんとだよ！まあ、お互い忙しいし仕方ないか。そうそう、やまっちもそらっちも大変だったらしいね。うみっちから聞いてるよ。」

ひゃど先輩が私たちを気遣ってくれた。

「うみっちのおかげで助かりました。うみっちの推理力は格段に上がっていますよ！」

やまっちがポンッと私の肩を軽く叩きながらおだてる。

「大活躍だったらしいね！ひゃだも私も今日は期待してるよ。」

そう、今日はミステリーナイト。5人ひと組が参加条件ということで、このメンバーで参加することになった。

めら先輩とひゃど先輩は、私の高校の1年先輩。今はひめ姉が卒業した京阪府立大学に通っていることもあり、ひめ姉とも仲が良い。

やまっちとそらっちとは私を介して仲良くなった。

私たちは会場に向けて歩き始めた。周りには参加者らしい人が増えてきた。

「今日は何チーム参加しているんですか？」

そらっちは辺りを見渡しながら言う。探偵のコスプレをしているグループもいくらかいる。ごつい男が名探偵コナンのコスプレしているのはどうかと思うけど。

「ひと組5人で、10組参加してるから50人ね。」

めら先輩が答える。

「そうなんですか？大きなイベントなんで、もっと多いと思っていました。」

「書類選考がなかなか厳しかったんだよね。何ととっても賞金50万だからね！」

やまちは力を込めて言った。そう、私たちの目的は何と言われようと賞金なのだ。

そんな会話をしているうちに会場に着いた。

「京都ミステリーナイトプレミアムご参加の皆様ご連絡致します。間もなく開演となりますので、第0チェックポイントの会場にお入りください。」

開演を知らせるアナウンスが流れている。それを合図にめら先輩が気合いを入れる。

「それじゃあ、サクッと謎を解いて賞金で美味しいもの食べて帰りましょう！」

第0チェックポイントの会場に入る。会場は薄暗いが、もう他の参加者は席に着いているのが分

かる。

ステージに光が灯り、司会者らしい男性がステージ中央に立った。いよいよスタートだ。

「皆さま、京都ミステリーナイトプレミアムによろこそ！私、本日の司会進行とこの第0チェックポイントを務めさせていただきます、御堂でございます。」

御堂は黒のスーツに赤の蝶ネクタイを付けている。なかなかのイケメンである。

「そして、各チェックポイントで皆さまをお待ちするメンバーをご紹介します。」

舞台袖から7名のメンバーが出てきた。

「私の右から谷町、四橋、中央、千日、堺筋、長堀、今里です。」

皆、黒のスーツ姿だが、蝶ネクタイの色が異なる。四橋と堺筋と今里は女性だ。

「大阪市営地下鉄の営業路線が名前になっているね。」とやまっちは横の私に小声で話しかけてきた。

「うん、ラインカラーと蝶ネクタイの色を合わせてるね。」

「あっ、堺筋さんと今里さんは双子なのかな？」

顔まではよく見ていなかったが、よく見るとなるほどそっくりだ。女優のように綺麗な顔をしている。

御堂はメンバーの紹介の後、今宵のミステリーナイトの説明に入った。

「今回は1つのチームを1人、2人、2人の3グループに分かれていただきます。各チームに3つのスマートフォンをお渡ししますので、それで連絡を取り合ってください。ちなみに皆様の携帯電話、スマホ、タブレット端末等は預からせていただきます。ご了承ください。2人組のグループはそれぞれ天のコース、地のコースを進んでいただき、そこで情報収集をしていただきます。天のコースでは部屋や現場を調べて手がかりを見つけていただき、地のコースでは出題された問題を解いて私どもからヒントとなるものを得ていただきます。ちなみに天のコース、地のコースともに3問です。そして、残った1人が司令塔となり、第7チェックポイントにて待機していただき、それぞれが得た証拠品から事件の真相を導き出します。ただし、スマートフォンで会話をすることはできませんし、送る内容はそれぞれのチェックポイントで得た内容のみです。ちなみに天のコースと地のコースはそれぞれ完全に独立しており、情報を送りあうこともできません。司令塔が最もエレガントな解答を導いたチームに賞金50万円を贈呈いたします！では、まずどのような編成にするか各チームで話し合ってください。制限時間は5分です。」

「誰が司令塔をする？」とめら先輩。

「そりゃあ、うみっちでしょ？」とひゃど先輩が返す。

「異議なし！」とやまっちとうみっち。

「責任重大だなあ……。」

あっという間に決まってしまった。まあ、頑張りますか！

「じゃあ、私とひゃどが天のコースに行こうか？体力には自信あるし。」とめら。

「わかりました。では、私とうみっちで地のコースを攻略します！」とやまっち。

「OK！決まりね。みんな頑張らしましょう！」私は気合いを入れた。

「では、全チームの司令塔の方、私長堀に付いて来てください。私が第7チェックポイントを担当させていただきます。」

私はひとり立ち上がり、「じゃあ、みんな頑張るって！」私はそう言い残して席を立った。

ちなみに私たちのチームナンバーは4番だ。ヒソカのナンバーだ。なんか行けそうな気がする。

そして、長堀さんの後に続いて第7チェックポイントに進んだ。

ひとりになると途端に不安になる。やはり、仲間の力は偉大だな。特に今日のメンバーのように頼りになる仲間だと。

すぐに第7チェックポイントに着いた。そこには10の部屋があった。長堀さんは説明に入った。

「では、司令塔の皆様はチームナンバーと同じルームナンバーの部屋にお入りください。ここが第7チェックポイントにして、最終ポイントとなります。ネットが使えるパソコンが完備しておりますので、推理に用いていただいて構いません。部屋の外に出ていただくのは構いませんが、間違って違うチームの部屋に入ってしまった場合は失格となりますので、ご注意ください。チームのメンバーが第1～6チェックポイント全てを通過した瞬間に私どもからメールを送ります。そこに送ってほしい内容を記載しておりますので、15分以内に必要事項を記入の上返信してください。時間オーバーは失格となります。全チーム提出後の閉会式にて優勝チームを発表します。」

私は静かにその時を待った。頭をフル回転させるその時を。

「では、各チームの天のコースに進まれる方はステージ右側の控室へ、地のコースに進まれる方はステージ左側の控室へお進みください。天のコースではチームナンバー1→2→3・・・の順に第1～3チェックポイントに、地のコースではチームナンバー10→9→8・・・の順に第4～6チェックポイントにお進みいただきます。では、ご武運を！」

御堂の美声が響きが響き渡った。

「では、チームナンバー4の天のコースに進まれる方、どうぞ。」

第1チェックポイントは弁護士事務所（風の一室）だ。6畳ぐらいだろうか。その部屋に谷町が待っていた。

「お待ちしておりました。ご覧の通り、ここは弁護士事務所です。ここで今回解いていただく事件がどんなものだったのかをこの部屋で探していただきます。制限時間は5分です。では、開始してください。」

「5分？あつという間じゃない。」

めらは机の引き出しを開けながら言った。

「とにかく片っ端から開けていこう。」とひゃど。

ふたりは引き出しを片っ端から開けたが、それらしきものは見つからない。

時間だけが過ぎていく。さすがに焦ってきた。

ここは全てのチェックポイントでいちばん肝心と言っていい。何故なら、どんな事件が起こったかが分からないと推理することができないからだ。

「残り1分です。」と谷町が無情に告げる。

「えー、やばい！まだ探していないところある？」

めらは汗だくだ。自分の顔を確認しようとしたが、この部屋には鏡がないようだ。

それにしても、谷町とは1分毎にカウントしてくれるので、その都度顔を合わしている。

谷町は部屋の中央に陣取っている（中央には何も置いていないため邪魔にならないようにという配慮だとうろうか）。

そして、失礼にならないようにか、常にあの人は私たちの正面をなるべく向くようにし、お尻を私たちに向けないようにしている。

まあ、こちらはふたりだから、常にとというのは難しいだろうけど。私自身は谷町の後姿を見ていない気がする。

さすがに行き届いているなあ。

「いや、もうないはず。ファイルの中も全部見たし・・・あっ、谷町さんの足元に床収納があるじゃない！」

ひゃどは焦っていたので、谷町とぶつかりそうになった。谷町は避ける一瞬でさえ、私の位置を冷静に把握しているような気がした。

ひゃどがその床収納を調べたが何も無い。でも、めらはある確信を抱いて、谷町にこう尋ねた。

「谷町さん、うしろ向いてくれませんか？」

「・・・気付かれましたか。正解です。」

谷町がうしろを向くと、腰の部分が膨らんでいる。ズボンに何かを挟んでいるのが分かった。

「あっ、そこにあるんだ！」

ひゃども分かったようだ。

鏡がないのも安易に後ろ姿を見せないようにするためだったのかな。

谷町はズボンから資料を抜き取り、めら達に渡した。

そこには『京都ミステリーホテルオーナー殺人事件』と書いてあった。

「皆様にはこの事件の真相を解き明かしていただきます。では、どのような事件だったかは第2チェックポイントで。堺筋が待っています。」

めらはうみっちにメールを送る。

「第1チェックポイントクリア！解くべき事件は『京都ミステリーホテルオーナー殺人事件』。第2チェックポイントで詳細が分かるみたい。」

ふたりを第2チェックポイントに進んだ。

第2チェックポイントは警察署の資料室だ。谷町が言った通り、そこには堺筋が待っていた。

資料室にはいくつかの事件資料が入った箱が置かれている。

「では、この中から必要な資料を判断していただきます。時間内であれば資料はあなた方の自由にさせていただいて構いませんので、写真を撮っていただいても結構です。写真はあとでとても重要となるでしょう。制限時間は10分です。では、始めてください。」

「なるほど。『京都ミステリーホテルオーナー殺人事件』だけを考慮したらいいわけだ。」

めらは言った。

「だね。では、まずそれを探しましょう。」

捜査資料が入っている箱は10つ。片っ端から探していく。何を探せばいいか分かっているので、程なく見つかった。

ふたりは捜査資料を読む。

「とりあえず、全ての資料を写真に撮ろう。20ページあるが十分時間はある。」

「うん。あとはうみっちに任そう。」

「あはは、それがいちばんかもね。写真資料もいくつかあるね。」

ひゃどは写真資料を手に取り、まじまじと見た。遺体（俳優が演じている）の写真や事件現場の写真など。実にリアルだ。

ふたりは捜査資料を全て写真に撮り、うみっちに送付した。

ここで時間いっぱい。

「はい。終了してください。では、第3チェックポイントに移動いたします。第3チェックポイントは事件現場です。千日が待っています。」

第3チェックポイントは、京都ミステリーホテルオーナーの自宅の書斎（風の部屋）である。千

日が待っていた。

「ここでは、証拠品をひとつ見つけていただきます。証拠品には被害者の血痕が付いていますので、それを探し出してください。制限時間は5分です。」

「また、5分！ひゃど、急ごう！」めらはそう言いながら、本棚に並べられた本を片っ端から捲っている。

ただ、ひゃどは余裕の表情だ。第2チェックポイントのある言動がヒントとなった。

実際に手に取り、確信する。

「めら、あったよ！」

「えー、何で分かったの。」

「第2チェックポイントの堺筋さんの言葉がヒントになったよ。”写真はあとでとても重要となるでしょう”て言葉がね。それにこれが写ってたの。」

捜査資料の写真をめらに見せながら、実物をめらの前に置く。

くまのぬいぐるみだ。後ろに血がついている。

「ひゃど、お手柄！」

「たまには活躍しないとね！」

「よし！こちらはパーフェクト！！」

「じゃあ、この情報もうみっちにメールしよう。」

「では、おふたかたはこちらの控室でお待ちください。」と千日。

控室には既に天のコースをプレイし終えたチームの人たちがいた。

みんな、どうだったのだろうか。表情からは分からない。

「では、チームナンバー4の地のコースに進まれる方、どうぞ。」

やまっちとうみっちは第4チェックポイントに進んだ。

そこには四橋が待っていた。

「ここでは、ある暗号を解いていただきます。制限時間内に正解を導ければ今回解いていただく事件の印手がかりを差し上げます。では、前のモニターをご覧ください。そこに暗号文が映し出されますので分かりましたら、その場でお答えください。制限時間は5分です。では、始めます。」

画面には下記の暗号が映し出された。

あま？ま

ゆゆゆゆ

ひひひひ

しははは

？あああ

？に隠されている名前は

まい みう ゆま

の内どれか。

「ここはやまっちに任すよ。私より得意だから。」とそらっち。

「いやいや、そらっちも考えてよ～、と言いたいところだけど、もう分かっちゃった！」

「えっ、ほんとに？」

「うん。正解は”みう”ですよね？」

四橋は大きく頷く。

「正解です！素晴らしい！」

「何で？」そらっちはまだ分からないようだ。

「ヒントは中学1年生で絶対に覚えさせられるものだよ。」

「中学の英語・・・あっ、I、my、me、mineの表か。」

「そう。それをひらがなにして、頭文字が並んでいる。抜けているのは”me”と”we”だから、”み”と”う”で正解は”みう”。」

「なるほどね。」

四橋はやまっちの解説が終わるのを待って、事件の手がかりとなる2枚の写真をふたりに渡した。

写真は2枚とも犯行現場の写真だった。とは言っても、それは事件が起こる1週間前と10分前のものだ。

「これだけでは何のことか分からないね。」とやまっち。

「多分、これから得る情報や天のコースの情報と合わさって意味をなすんだろうね。それにしても、このくまのぬいぐるみ可愛いね！特に目が可愛い！」

そらっちは10分前の写真を見つめながら言った。くまのぬいぐるみが正面を向いて飾られていた。

「えー、今そこ注目するの？」やまっちは笑いながら言った。

「あっ、そのくまのぬいぐるみは女の子のものじゃなくて、男の子のものよね。」
確かにかわいいぬいぐるみで女の子の持ち物のようだが、男の子が胸に抱いている。

1週間前の写真では家族も写っているので、それで分かった。

「とにかくうみっちに送っておこう！」やまっちは写真を撮り、うみっちに送った。

「では、第5チェックポイントにお進みください。そこには今里が待っております。」
やまっちとそらっちはもういちど気を引き締めて第5チェックポイントに進んだ。

「お待ちしてありました。私、今里がこの第5チェックポイントを務めさせていただきます。ここでも前のモニターに問題が映ります。今回はある事件の真相を導いていただきます。制限時間は5分です。では、始めます。」

『ある人気恋愛ドラマのダブル主演の俳優と女優が殺人事件に巻き込まれた。
主演のひとり浮名を流しまくっていて、もうひとは清純派で知られていた。
そして、主演のひとりが殺された。
捜査を進めた結果、男女間とトラブルの末の悲劇と分かった。
結局、ドラマは代替りの女優を用意し、残りの回を乗り切ることとなった。
真相は？』

「何かチグハグした内容だね。」とそらっち。

「いや、そうじゃないんよ。」とやまっちはどうやら分かったようだ。

「えっ、でも浮名を流しまくっていた俳優が殺されたのに代わりに女優を用意したんでしょ？」
「そこが間違っているの。浮名を流していると聞くと男性と思うし、清純と聞くと女性と思うけど、問題文ではどちらが男性とも女性とも言っていない。」

「あっ！、ということは・・・。」

「そう。浮名を流しているのは女優。その女優が殺されたんだから、当然代替りの人は女優だよな。」

「なるほどね。」

「はい。それで正解でございます。では、真相を導き出すためのヒントを差し上げます。ここでは家族の血液型の表です。」

「血液型？」

「はい。これでございます。」

やまっちは今里から表を受け取った。

表は以下の文章が書かれていた。

オーナー（37歳）：AB型

その妻（35歳）：O型

長女（14歳）：AB型

長男（12歳）：O型

「これが何を意味するのかな？」やまっちは文章を読み終えて言った。

「おそらく・・・動機。」

「動機？」

「うん。でも、事件の全貌が分からないから何とも言えないけど。」

「さすが医学部ってところかな！じゃあ、そらっちが気付いたことも一緒にうみっちにメール送っておこう！そらっち、お願いね。」

「うん。少しは活躍できるかも。」

「では、おふたりとも第6チェックポイントにお進みください。」

「では、私中央が地のコース最後の第6チェックポイントを担当させていただきます。解けましたら、事件の核となるダイイングメッセージをお渡しします。問題ですが、これからまずおひとりこの部屋に入ってください。部屋には3つの電球があります。どれもスイッチをONにすれば付きます。もちろん、OFFにもできます。10分後に部屋を出た後、もうひとりが入れ替わりに部屋に入ります。もちろん、その時に言葉を交わしたり、サインを送ることはNGです。3つともON/OFFを繰り返すことができますが、付けたまま外に出ることはできません。全て消えた状態で、入れ替わりに入った人が長く付いていた順番にランプを選んでいただきます。ちなみに、あとに入った人は電球に触ることは可能です。」

「そらっち、私はやり方が分かったよ。これはね・・・。」

「待って。私も分かった！」

「OK。じゃあ、中央さん始めましょうか。」

10数分後、ふたりは無事通過した。

「これは簡単だったね。要はランプをそれぞれA、B、Cとすると、Aを10分付けっ放しにして、Bを5分、Cを1分だけ付ける。これで後に入った人がランプにそれぞれ触れば、熱さで分かるよね。」

「うん。そういうこと！」

「ダイイングメッセージです。」中央がふたりに1枚の写真を渡した。

それには被害者が映っていた。

「何か・・・変な格好で亡くなっているね・・・。」とそらっち。

確かに被害者は両手を頭の上に置き、明日は足裏を合わせている。死に際としては不釣り合いな格好だ。

「うん。これは被害者自身がダイイングメッセージってことだよね。」

「そういうことになるね。他にそれっぽいものは写ってないし。」

やまっちはひと呼吸して、地のコースを総括してこう締めた。

「あとはうみっちに任せましょう！」

こうして、私たちは天のコース、地のコースとも全問正解で終えた。

死の伝言 - 表舞台 真相 -

私のスマホ（借りものだけど）に運営事務局からメールが届いた。

今から15分以内に謎を解かなければならない。

私のスマートフォンには全ての情報が揃っている。

「みんな、全部解いてくれた！こりゃあ、絶対に解かないと！！」

解き明かす謎は以下の通りだ。

事件名：

容疑者：

犯人：

証拠品が語るもの：

動機：

ダイニングメッセージが表すもの：

動機：

文字数や文体の制限はない。ただし、時間制限はあるので丁寧にばかり書いてはいられない。

むしろ、簡潔に必要なことだけを書くようにする必要がある。

そして、既に私の中では推理は組み上がっていた。あとは文章にするだけだ。

事件名は第1チェックポイントで分かっている。京都ミステリーホテルオーナー殺人事件だ。

容疑者は第2チェックポイントの捜査資料を読んで判明した。

どうやら、防犯カメラの映像から家族のうちの誰かということになるようだ。

ということは、オーナーの妻、長女、長男のうちの誰かとなる。

ここからが核心。犯人は長男であると私は導き出した。

その理由のひとつ目は、くまのぬいぐるみである。

第3チェックポイントで得た背中に血痕が付いたくまのぬいぐるみと第4チェックポイントで得た事件1週間前と10分前の写真から、そのように導いた。

10分前の写真では飾られたくまのぬいぐるみは、ちゃんと正面を向いているのに事件時には後ろを向いている。

これは大切にしているくまのぬいぐるみに自身の殺人を見られたくなかったからではないか。だから、うしろを向けていたのではないか。

そして、そのくまのぬいぐるみを大切にしているのは長男であることが1週間前の写真から分かっている。

これが証拠品が語るものだろう。

続いて動機だが、第5チェックポイントの血液型の表とそらっちから得た情報で分かった。父親の血液型はAB型、母親の血液型はO型。

そらっちが言うには、この両親からはO型の子供は生まれえない。よって、長男の親は別にいること

になる。犯行に至る過程は分からないが、これが引き金となり父親を殺害したのだろう。

最後にダイイングメッセージだが、これは第6チェックポイントで得た情報だ。

”被害者は両手を頭の上に置き、明日は足裏を合わせている”。

これは実際に自分自身でしてみたら思い当たった。これは男性マークを表しているのではないか。

そうなると、容疑者の中で男性は長男しかいない。

「これで完璧！」

私は自信を持って送信した。人事を尽くして天命を待つ！

運営事務局から返信が来た。

「ご解答、確かに受け取りました。では、第0チェックポイントの会場にお戻りください。」

私はひと呼吸して、席を立とうとした。その瞬間！

「きゃあ〜、人が死んでる！」女性の悲鳴が響き渡った。

そう、これから本当の死の伝言を解くこととなる。

死の伝言 - 裏舞台 - に続きます。